

会議・視察報告

2012年日中経済協力会議—於黒龍江

ERINA 特別研究員 鈴木伸作

第12回目の日中経済協力会議が、中国黒龍江省のハルビン市で2012年8月1日～4日まで開催された。

昨年（2011年）の長春での会議は東日本大震災の影響で1日間の短い開催であったが、今回は全体会議での基調講演に続く日中の自治体代表の発言・報告、日中VIP会談、4つの分科会を通じてのビジネスマッチング交流会、各省各県の個別会見、都市間交流会など、短時間に多彩な行事が開催された。以下概要を報告する。

会議は、中国黒龍江省をはじめ東北3省、内モンゴル自治区人民政府、日中東北開発協会と日中経済協会が共同主催し、その運営は黒龍江省商務庁が行った。日本からは経済産業省、中国日本大使館、日本国在瀋陽総領事館、日中東北開発協会、日中経済協会、東北経済連合会等の関係者、自治体として新潟県、秋田県、山形県、北海道、富山県の首脳、その他研究機関、企業から約150名が参加した。中国側は商務部、中国發展改革委員会、地方行政府からは黒龍江省、遼寧省、吉林省、内モンゴル自治区代表と各省の地方都市幹部や企業から約310名が参加した。

今回の会議のテーマは、開放、実務、革新の理念により「産業協力を深め、日中協力の新たな頁を拓く」であった。

全体会議（写真）で、来賓として日本側からは丹羽宇一郎日本国駐中国特命全権大使、中国からは宋耀明中国商務部副司長が祝辞を述べ、会議の成果と今後の日中間の実務的な経済交流の発展についての期待が述べられた。

続く全体会議では、中国側からは孫堯黒龍江省副省長を

写真 全体会議の様子



（出所）日中東北開発協会撮影

始め、各省・自治区の代表、日本側は泉田裕彦新潟県知事、高原陽二北海道副知事、高橋節山形県副知事、堀井啓一秋田県副知事、植出耕一富山県副知事、宇部文雄東北経済連合会副会長などが、各県・省の経済概況の報告とともに各地域の主要産業やプロジェクト、観光などの優位性を紹介し、今後の日中両方面の具体的なビジネスの発展に対する期待等が表明された。

分科会では、新材料・省エネ環境保護・バイオ製薬産業、緑色食品・緑色農業産業、設備製造・石油化工産業、現代サービス業・文化産業の4分科会が開催され、各企業や行政幹部によるプロジェクト紹介やプレゼンテーションが行われ、企業交流会へと続いた。

会議の成果について日中双方が署名し発表された備忘録には、地方政府首脳、経済団体、企業の責任者が、今回のテーマに沿って、各自の優位性の発揮、産業協力の深化等について講演を行い、産業協力の深化をベースとして、相互理解とWIN-WINを目標に、各分野で実りある協力に全力で取り組む事で意見が一致した。日中双方の行政・企業の首脳が懇談し、各々のマクロ経済政策、産業の優位性、貿易投資等について意見交換し、相互理解と信頼を強め、今後の更なる協力のための基礎を固めたとしている。

筆者は、本会議に第7回の黒龍江省会議から参加しているが、当初の日中間の経済団体や企業代表の参加による実務的なビジネスの促進を主眼とする会議から、やや行政・地方政府関係者の主導によるPRや紹介の場、交流会の場として一部式典化しているように感じた。このことは、日中地方間の経済交流が既に企業間ビジネスに深化発展したことによるものなのか、経済協力会議に新しい役割が期待されているのか、会議開催の分岐点にあるように感じた。

備忘録には、今後、日中経済協力会議のプラットフォームとしての役割を十分に発揮し、今回の会議の精神を真摯に遂行し、双方の貿易・投資協力を前端的に推進してゆくことで意見が一致したと記されている。来年の2013年会議は、新潟市において開催される事も決定した。

2013年の新潟市での日中経済協力会議が、さらに深化する日中地方間の経済交流促進のためのプラットフォームとして大きな成果と重要な役割を果すことを期待したい。